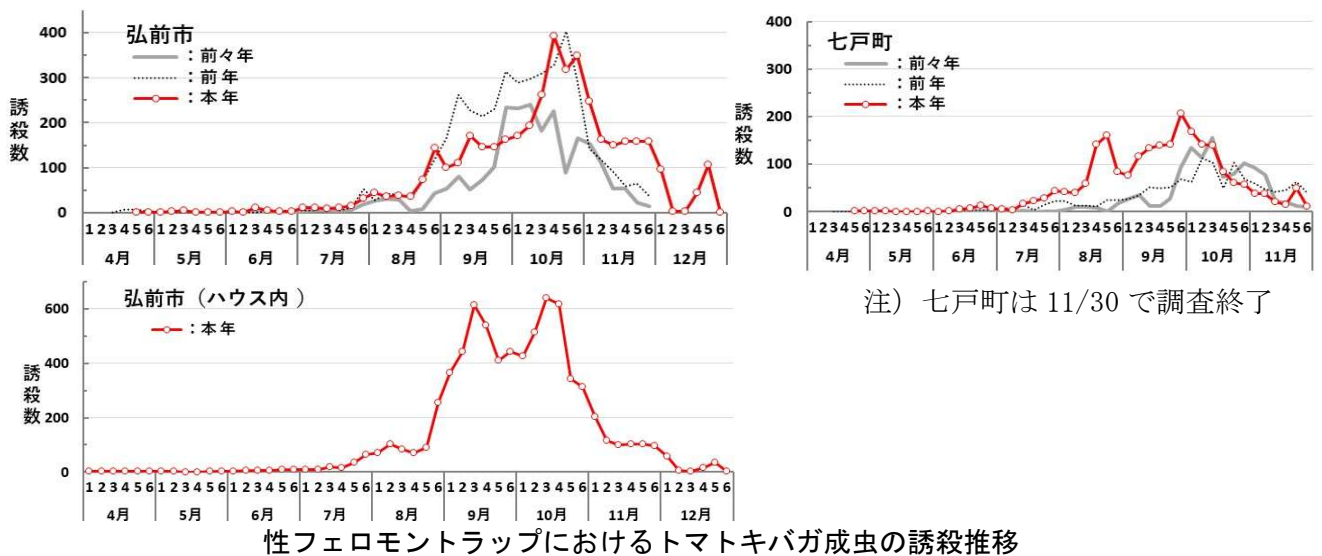


令和7年度病害虫防除指導情報 第2号
作物名：トマト・ミニトマト 病害虫名：トマトキバガ

トマトキバガの発生状況と防除対策について

1 発生状況

- (1) トマトキバガは中南米原産の害虫で、2006年のスペインへの侵入後、世界的に分布を拡大している。国内では令和3年の熊本県での初確認後、令和6年までに全都道府県で確認されている。
- (2) 本県では令和5年に発生が確認され、令和7年12月までに県内19市町村でトマト、ミニトマトの葉や果実に幼虫による食害が認められている。
- 本年の県内2か所に設置している性フェロモントラップにおける誘殺数は、8月後半から急増し、栽培が終了する11月まで多い状況だった。また、弘前市では12月になっても誘殺された。



2 被害と診断

- (1) 幼虫は葉の内部に潜り込んで食害し、食害部分は表皮のみを残して白変する。形状は大小様々な形をした袋状で、古くなると褐変した外観となる(写真1)。
- (2) 本県のトマトでは袋状に潜葉する害虫種は確認されておらず、上記のような食害が認められた場合は、トマトキバガと判断できる。また、食害部を観察すると食入部に糞の集積が見られ、本種の診断の目安となる(写真2)。
- (3) 多発すると株全体が枯れ上がり、果実にも食入して腐敗を生じさせるなど、従来の害虫種には認められなかった被害を出すことが本種の特徴と考えられる(写真3)。



写真1 幼虫の食害葉



写真2 幼虫の食入痕と糞の集積(丸印)



写真3 被害果実

3 防除対策

- (1) トマトキバガは増殖力が高く、多発した場合の防除が困難となることから、発生初期の防除が極めて重要となる。
- (2) これまでの発生状況から、トマトキバガは無加温ハウスでの越冬が可能と考えられ、前年に発生したほ場や近くのほ場では育苗期や定植後早期の発生が懸念される。
- (3) ほ場をよく観察し、トマトキバガによる食害が認められた場合は、下表を参考に直ちに薬剤散布を行う。
- (4) 本種を対象とした薬剤散布を実施した場合は、一部の薬剤を除き、オオタバコガの防除は不要である。また、同時発生するアザミウマ類及びコナジラミ類の適用のある薬剤を選択して効率的に防除する。
- (5) 薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (6) 被害葉や被害果実にはほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するなどして死滅させ、適切に処分する。

【トマトキバガに登録のある薬剤（令和7年12月26日現在）】

| IRAC コード | 系 統 名 | 農薬の名称 | 希釈倍数、 使用方法 | 本剤の 使用回数 | 使用時期 | 登録作物 | | 適用病害虫 | | | | |
|-------------|-------------------|------------------------------|---------------------|-------------|-----------------|-------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | | | | | | ト マ ト | ミ ニ ト マ ト | ト マ ト キ バ ガ | オ オ タ バ コ ガ | ア ザ ミ ウ マ 類 | コ ナ ジ ラ ミ 類 | ア ブ ラ ム シ 類 |
| 5 | スピノシン系 | ディアナSC ラディアントSC | 2,500～5,000倍 | 併せて2回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○※4 | |
| | スピノシン系＋ 物理的防除剤 | ダブルシューターSE | 1,000倍 | 2回以内※1 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 6 | アベルメクチン系 | アグリメック | 500～1,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | × | ○ | | ○ | ○ | |
| | ミルベマイシン系 | アフアーム乳剤 | 2,000倍 | 5回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | | アニキ乳剤 | 1,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | | ○※3 | ○ | |
| 11A | 生物農薬 (BT剤) | ゼンターリ顆粒水和剤 | 1,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○ | ○ | ○ | ○※2 | | | |
| | | エスマルクDF | 1,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○ | ○ | ○ | ○※2 | | | |
| | | チューンアップ顆粒水和剤 | 2,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | チューレックス顆粒水和剤 ジャックポット顆粒水和剤 | 1,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○ | ○ | ○ | ○※2 | | | |
| | | デルフィン顆粒水和剤 | 1,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | サブリナフロアブル | 1,000倍 | — | 発生初期(但し、収穫前日まで) | ○※2 | ○※2 | ○※2 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ピロール | コテツフロアブル | 2,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○※3 | | |
| 22A | オキサジアジン | トルネードエースDF | 2,000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで | ○ | × | ○ | ○ | | | |
| | | ファイントリムDF | 2,000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで | ○ | × | ○ | ○ | | | |
| 22B | セミカルバゾン | アクセルフロアブル | 1,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 28 | ジアミド系 | フェニックス顆粒水和剤 | 2,000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | プレバゾンフロアブル5 | 2,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | 100倍(灌注) | 1回 | 育苗期後半～定植当日 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |
| | | ベリマークSC | 400株あたり25mL (灌注) | 1回 | 育苗期後半～定植当日 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | プリロツソ粒剤オメガ | 2g/株(株元散布) | 1回 | 育苗期後半～定植時 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | ベネビアOD | 2,000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | ヨーバルフロアブル | 2,500倍 | 3回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 30 | イソオキサゾリン系 | グレーシア乳剤 | 2,000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| UN | ピリダリル | プレオフロアブル | 1,000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |

※1:スピノエース顆粒水和剤と併せた回数、※2:野菜類での登録、※3:ミカンキイロアザミウマでの登録、※4:2,500倍で適用

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬情報」 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
 農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>

当情報は青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」(<https://www.nounavi-aomori.jp/>)に掲載しています

【この情報に関する問合せ先】 担当：総括主幹 鈴木 千秋
 030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6、TEL:017-729-1717/FAX:017-729-1900